# ９［社会］　『下流社会』

　①恋愛結婚というものも、１９５５年体制において発達した結婚形式だと言える。事実１９５５年当時35％ほどだった恋愛結婚率が、75年には65％にまで急増した。

　55年体制は近代化の時代だから、政治的には民主化、経済的には工業化、それにａトモナって都市化と大衆消費社会化が進む。職業は農民・自営業者からｂコヨウ者化し、家族形態は大家族から核家族化し、教育は高学歴化し、文化的には個人主義化が進む。そういう55年体制のｃチョウリュウの中に恋愛結婚も位置づけられる。

　［　　Ａ　　］民主化が進まないと自由恋愛はできない。個人の自由のない社会では恋愛結婚は難しい。階級や身分の壁が存在していてはだめである。そういう意味で、まさに恋愛結婚は中流化の時代にふさわしい結婚形式だったと言える。

　具体的には思い出せないが、１９７０年代までは、家柄の違う男女が親の反対を押し切って結婚するとか駆け落ちするといったドラマがたくさん作られていた気がする。家柄や階級を乗り越えるのが真の恋愛結婚だとロマンチックに信じられていたからだろう。たしかに私が以前インタビューした若者は、両親が団塊世代で、母親は有名な政治家の家の生まれだったが、あえてお嬢様大学に進まずに大学に入り、下町出身の父親と結婚したのだと言っていた。

　［　　Ｂ　　］、そのように自由恋愛が輝きを持っていた時代は70年代がピークであったに違いない。80年代以降、日本社会が次第に階層化してきたとするならば、当然、再び自由恋愛結婚が困難になってきているはずだ。

　［　　Ｃ　　］80年代以降、②晩婚化が進んだ。その理由は女性の社会進出であり何でありと、いろいろ理由はある。

　が、最も重要でありながら、これまで、や山田を別とすれば、あまり誰も語りたがらなかったのは、80年代以降、階層化が進んで自由恋愛が困難になったという点ではないだろうか。

　実際、結婚ほど同じ階層の人間同士を結びつけるものはない。個人だ、自由だとはいっても、そもそも異なる階層の人間と出会うチャンスがないし、出会っても、恋愛の、まして結婚の対象とは考えないのが普通である。一流商社マンはパチンコ屋で働くおねえちゃんとは結婚しないし、ミリオネーゼ系女性は自分のオフィスをｄソウジする男性とは結婚しないのだ。なぜか。所得、職業、学歴、ｅシュミなどなど、すべてにわたって階層が違うからだ。階層が違うと話も合わないからだ。どんなに相手がいい人でも、結婚となると、③その問題が頭をもたげる。

●語注

１９５５年体制＝一九五五年に誕生した自由民主党と日本社会党の保革二大政党による政治体制。

団塊世代＝第二次大戦後、数年間のベビーブームに生まれた世代。

小倉千加子＝心理学者。著書に『結婚の条件』など。

山田昌弘＝社会学者。著書に『希望格差社会』など。

ミリオネーゼ系女性＝「ミリオネーゼ」は女性起業家のこと。高学歴・高所得の女性一般をさす。

問１　二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　傍線部①55年体制において恋愛結婚が急増した理由を本文に即して二〇字以内で答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　空欄Ａ〜Ｃに入る最も適当な語句を次から選べ。4点×3

ア　すなわち　　イ　たしかに　　ウ　そもそも　エ　たとえば　　オ　しかし

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕

問４　傍線部②について、その最大の理由を二〇字以内で答えよ。5点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部③とは何か、五字で答えよ。5点

〔　　　　　　　　　　〕

問６　この文章を、内容の上から二つに分けるとすると、後半は何段落からか。段落番号で答えよ。5点

〔　　　〕段落

問７　筆者の考えとして最も適当なものを次から選べ。5点

ア　55年体制で進んだ高学歴化と個人主義化が、恋愛結婚増加の最大の原因だ。

イ　愛し合う男女が家柄や階級の違いを乗り越えるのが、真の恋愛結婚である。

ウ　階層の違う人間を恋愛や結婚の対象と考えないのが、人間の普遍的な傾向だ。

エ　80年代以降、恋愛や結婚には階層の違いが色濃く反映されるようになった。

オ　80年代以降、恋愛結婚が困難になったのは多くの女性が社会進出したからだ。

【解答】

問１　ａ伴（って）　ｂ雇用　ｃ潮流　ｄ掃除　ｅ趣味

問２　民主化が進んで個人の自由が広がったから（19字）

　　　（傍線部の内容がなければ、それぞれ５点減点）

問３　Ａ＝ウ　Ｂ＝オ　Ｃ＝イ

問４　階層化が進んで自由恋愛が困難になったから（20字）

問５　階層の違い

問６　［5］（段落）

問７　エ

■覚えておきたい語句

□5　潮流……………………その時代の傾向。

□17　晩婚……………………年をとってからの結婚。〔反〕早婚

□26　頭をもたげる…………隠れていた物事や、考え・疑いなどが表に出てくる。

〔要　約〕

本文は大きく二つに分かれる。

柱の段落である［1］段落と［5］段落を中心に、対比的に要約すればよい。

ただし筆者の主張は、後半の仮説により重きを置いているので、後半を重視して要約する。

　　　　↓

恋愛結婚は、55年体制において発達した結婚形式だと言える。しかし、80年代以降、日本社会が次第に階層化してきたとするなら、当然、再び自由恋愛結婚が困難になってきているはずであり、事実、晩婚化は進んでいる。（100字）

〈筆者＆出典〉三浦　展（みうら・あつし）一九五八年（昭和33）新潟県生まれ。消費社会研究家、マーケティング・アナリスト。消費・社会・文化・都市研究のためのシンクタンクを設立。マーケティング活動を行うかたわら、独自の「郊外社会学」を展開。本文は、『下流社会―新たな階層集団の出現』（光文社新書、二〇〇五年）より。

【読みのセオリー】

★評論の文章構造

序論⇨その文章で追究する問題を提示する。

本論⇨序論の問題提示を受けて、筆者の考えや具体的な事実などを述べる。

結論⇨最終的な結論や全体のまとめを述べる。

　また、本論はふつう内容によって幾つかに分けられる。それを見分けるには、「トピック・センテンス」や接続語（「まず」「第一に」）などに着目する。

■読みのセオリー［実践］評論の文章構造

問６　この問題文は序論・結論がないので、本論の切れ目を問う問題である。次の□に段落番号1～8を入れよう。

１、まず、「柱の段落」（内容を端的に提示している段落）を探そう。

　［１　　］段落

　［２　　］段落

２、次に、その内容を扱っている段落をひとまとまりとして、切れ目を考えよう。

・55年体制の説明や恋愛結婚が増えた理由、具体例。

［３　　］～［４　　］段落

・80年代以降、逆に自由恋愛結婚が困難になってきた理由。

［５　　］～［６　　］段落

〔解答〕　１［1］　２［5］　３［2］　４［4］　５［6］　６［8］

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問３　空欄Ａ〜Ｃに入る最も適当な言葉を次から選べ。（Ａ12行目「たしかに」、Ｂ19行目「が」、Ｃ21行目「そもそも」を空欄に）

　　ア　すなわち　　イ　たしかに　　ウ　そもそも　　エ　いわゆる　　オ　が

　［答］　Ａイ　Ｂオ　Ｃウ

＊新問

問８　17行目「その理由」とは何の理由か、三字で答えよ。

　［答］　晩婚化